



## 社会福祉学研究科(修士課程)の教育目標と特色

わが国の総人口は2005年をピークに減少を続けており、少子高齢化の進行に伴う社会保障、社会福祉制度の再編が主要な政策課題となっている。とりわけ高齢化率のウェイトは年々増加しており、2025年には約30%、2055年には約40%と、世界最高の超高齢社会を迎える推計が示されている。こうした状況に対して、年金・医療制度改革をはじめ、市町村への権限移譲、利用者の選択権の重視、介護保険制度等の見直しが進められている。加えてコミュニティケアの推進に伴い自治体レベルにおける地域包括ケアシステムの構築が求められている。

これに対して福祉人材の養成に対する問題も提起されており、北海道においても近年、国の社会福祉政策の方針を反映して、社会福祉従事者数は増加し、各種の福祉施設で働く従事者、市町村の社会福祉協議会の職員、ホームヘルパー、また児童相談所、福祉事務所等の行政職員、医療・保健の分野における医療ソーシャルワーカー等の福祉関係専門職の確保が急がれている。とりわけ高度に専門的な技能と知識を身につけたスーパーバイザーおよび福祉のまちづくりを担うファシリテーターの養成が強く求められている。

一方、社会システムや経済構造の変化および、価値観とライフスタイルの変化に伴い、職場や学校、家庭、あるいは地域社会における人間関係に変化をもたらし、それらが個々人にまた集団の中に歪みを生み、大きな社会問題化している。子どもたちの間での「いじめ」は陰湿化し、時として残虐な行為となって現れ、また親による子の虐待がマスコミで報じられることも目立つようになった。こうした歪みは、長期の引きこもりや不登校児の増加や摂食障害をはじめとする心身症、一般成人におけるストレス病や薬物・アルコール依存症などさまざまな形で現れている。このように深刻化する心理社会的な問題に対応するために、スクール・カウンセラーや、保健・医療ならびに各種相談機関における臨床心理士、さらには企業などで効果的な援助活動を展開する高度に心理学的な知識と技能を身につけた職業人の養成が求められている。

こうした中であって、学部段階の専門教育を超えて、大学院教育の果す役割は大きい。社会福祉学研究科は、広い視野に立って社会福祉と心理学の分野における高度の専門的な学識を授け、研究能力とともに高度の専門性を要する職員に必要な知識と実践能力を養うことを目的とし、社会福祉と隣接する諸領域における専門的な職業人の養成と、教育研究の後継者養成を主眼としている。

上述の基本的な教育目標に加えて、本研究科修士課程は以下のような特色をもつ。

### 1. リーダー養成とスーパーバイザー養成

福祉・保健・医療の領域における社会福祉および心理臨床従事者の量的増加に伴い、従事者の中核となるべく高度な専門性を身につけたリーダー養成が急務である。また昨今は、社会福祉士、介護福祉士および精神保健福祉士の資格制度化に伴い、実習の強化・充実が図られ、福祉現場におけるスーパーバイザー養成の必要性が高まってきている。社会福祉現場に多くの卒業生を輩出してきた本学では、この点に着目し、高度な専門的知識を身につけた本格的な医療・社会福祉従事者の量的確保という、公民両部門における社会的要請に応えることができるよう社会福祉学研究科の2専攻(修士課程)では、リーダー養成に加えスーパーバイザー養成を教育目標の一つとして位置づける。

### 2. リカレント(職業人継続)教育の推進

スーパーバイザー養成の重要性は、社会福祉のさまざまな現場で働く職業人の「リカレント教育」の必要性を示唆するものであり、今後、大学院レベルでの「リカレント教育」の果す役割は一層増すものと思われる。社会福祉学専攻で修士課程におけるリカレント教育を積極的に推進していくために、夜間そのほか特定の時期において授業と研究指導を行い、職業生活と両立しやすい勉強条件を整えていくことが求められている。

### 3. 学際的アプローチの取り入れと連携能力の重視

社会福祉諸施策の変化・拡充に伴い、社会福祉従事者は狭義の社会福祉に関する専門的な理論・知識・技術のみならず、社会学、心理学、保健・医療、精神医学等の隣接領域の学際的な知識を必要とする。保健・医療の領域で従事する臨床心理士の場合も事情は同じであり、また実際の保健・医療・福祉施設の職員は、医師や看護師、ソーシャルワーカー、精神保健福祉士、指導員、介護職員、臨床心理士、栄養士、さらに地域・在宅福祉関係職員（社会福祉協議会職員、ヘルパー、保健師等）、事務職員など実にさまざまな職種から構成されている。このように多職種からなる職場では、他職種の業務・役割をよく理解した上で相互の連携を有機的に行っていくことが必要である。そこでは学際的なアプローチを取り入れての知識の習得ばかりでなく、相手の立場を尊重しつつ自発性を発揮して、連携を形成する資質を養うことも欠かせない。

### 4. 国際化と北方圏に位置した地域福祉

保健・医療・福祉政策と関連するサービス体系の構築が世界共通の課題となっており、少子高齢化に伴う社会構造の変化に対応する社会保障制度と地域福祉サービスの継続的な見直しが各国で組み込まれている。わが国の介護保険制度は、約10年の実績を重ねながら継続的な見直しを求められている。一方、韓国・台湾・中国においても介護政策の検討がなされるようになり、大学院教育における国際化への対応は社会福祉システムの改善を図る上で、必須の課題といえる。加えて北方圏に位置する北海道においては、気候風土、文化、産業構造、人口構造、家族生活をはじめとして他府県と異なる特質を有している。それゆえ、その地域特性をふまえた福祉サービスの開発と制度の展開が求められている。北海道の地域特性を重視する上で、「地域福祉研究」や「コミュニティケア政策研究」において、北海道内各地の自治体および福祉関係機関・施設・団体等との連携の下でフィールド調査を取り入れた講義展開を図っている。

また本研究科では、講義科目に「国際比較福祉研究」を位置づけ、アメリカ・カナダ・イギリス・韓国・中国等の諸外国から研究者を招き、制度政策とソーシャルワーク実践に関する取り組みについて情報交換と共同研究を進めてきた。今後はアジア社会におけるわが国の国際貢献や福祉関係の制度政策およびソーシャルワーク実践を含めた交流が一段と求められている。

上述の基本的な教育目標と特色のもと、本研究科修士課程は以下のような具体的な教育課程を定める。

#### ◎社会福祉学専攻における教育課程

社会福祉サービスの体系は、コミュニティを基盤とする実践を中核にしながら、施設・機関を中心にしたミクロ実践および社会全体の福祉資源配分を対象にした福祉計画までを視野に入れた幅広いものである。

2015年度より、これらの包括的な社会福祉実践および分野別の専門性を高める教育・訓練をするために、幅広い科目群が用意された。さらに社会福祉研究の第一線で活躍するためあるいは社会福祉現場のリーダー、スーパーバイザーにとって必要な分析能力を高めるために必要な研究方法や関連領域の科目群が配置され、以下のような構成とした。

なお、社会福祉学専攻（修士課程）の修了の認定を受けるために修得しなければならない30単位のうち、16単位は備考欄に定めるところに従い修得するものとし、その余の14単位は履修していない研究科目を履修することによって修得する。

1. 基本科目、分野別研究、研究方法、関連領域、論文の5科目群の配置とした。なお修士論文を修了要件としている。
2. 基本科目として、社会福祉原理研究、ソーシャルワーク理論研究、福祉政策研究をおき、基礎を固めるようにした。
3. 分野別研究群においては、子ども家庭福祉研究、障害児・者福祉研究、発達障害研究、精神保健ソーシャルワーク研究、高齢者・高齢社会福祉研究、医療福祉実践研究、地域福祉研究、公的扶助研究の分野別の授業科目を配置し、関心ある領域の研究を追究できるようにした。
4. 研究方法群においては、専門的な調査力や分析力を高められるように、質的調査研究、量的調査研究、国際比較福祉研究、ソーシャルワーク実践研究、海外福祉実践研究など幅広い視野から研究

方法を身につけられるように配慮した。

5. 関連領域群として、社会保障財政研究、社会保障法研究、特別支援教育研究、社会的弱者研究、偏見・差別問題研究、コミュニティアケア政策研究、精神障害学研究の関連領域の科目を配置し、社会福祉研究を狭い福祉サービスの提供に限定せず、広く実際の視野を持って学びを深められるようにした。
6. 論文群として、論文指導Ⅰ、論文指導Ⅱ、修士論文をおき、1年次後期から論文指導を始め、質の高い修士論文の作成に取り組めるようにした。

### ◎臨床心理学専攻における教育課程

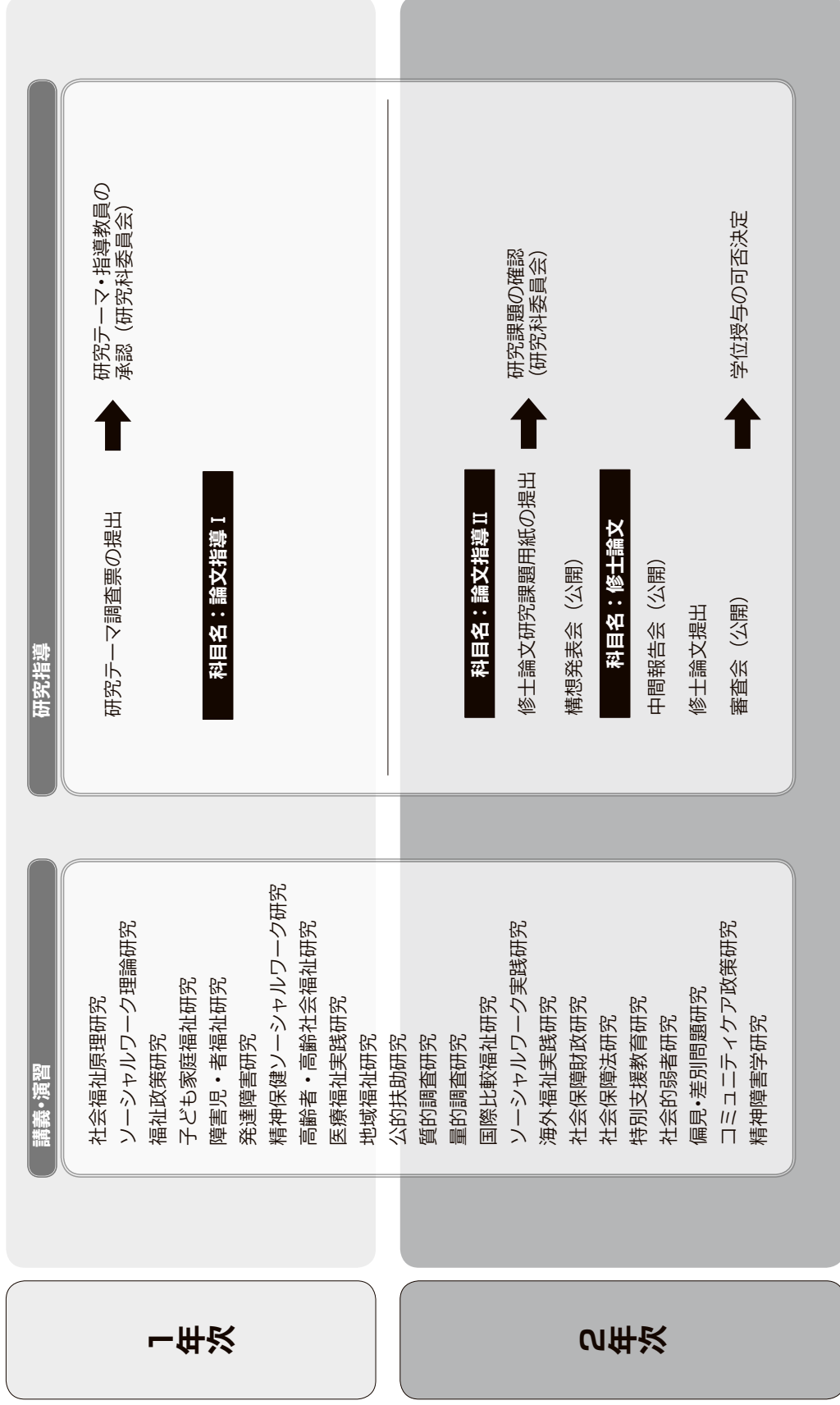
本専攻では、クライアントに具体的にどのように心理検査や面接を実施し、適切な援助法を見出すかを、実習体験を通して学ぶことを重視する。1年次には「臨床心理基礎実習」が配置され、心理面接の基礎的技術と態度、心理臨床的援助の理念や倫理観を習得するとともに、後期からはスーパーバイザーの指導の下に、心理臨床センター相談室を訪れるクライアントのカウンセリング等を担当する。さらに、2年次配置の「臨床心理実習」では、院生自身が担当する事例についてカンファレンス形式で発表し、グループ・スーパービジョンを受ける。以上2年間を通じ、ケース理解の仕方や心理臨床の実際について学び、専門的な職業人としての能力を高められるように配慮されている。

当専攻では、臨床心理学に関連したテーマで修士論文に取り組むことになるが、院生は2年次の「論文指導」を通してさまざまな指導を受けることになる。

具体的なカリキュラムは、臨床心理士資格取得を目標として、研究、特殊演習、演習、実習、特殊研究、研究法および課題研究の各群によって構成されている。このうち、研究、特殊演習および課題研究は必修で、特定教員のゼミに所属してそれぞれ4、4、6単位を修得することになっている。さらに臨床心理士養成指定大学院である本専攻では、高度に専門的な臨床心理学的な援助技術を習得し得るために、必修科目として「臨床心理査定演習Ⅰ・Ⅱ」(演習群)、「臨床心理基礎実習」および「臨床心理実習」(実習群)、「臨床心理学特論Ⅰ・Ⅱ」、「臨床心理面接特論Ⅰ・Ⅱ」(特殊研究群)が設けられている。

次いで、選択科目としては、「心理学研究方法論Ⅰ～Ⅳ」「心理統計法特論」(日本臨床心理士資格認定協会カリキュラム案ではA群対応)を、また「人格心理学特論」、「発達心理学特論」、「認知心理学特論」(同B群対応)、「社会心理学特論」、「家族心理学研究」、「犯罪心理学特論」(同C群対応)、「精神医学特論」、「障害者(児)心理学特論」(同D群対応)、「心理療法特論」、「学校心理臨床特論」、「グループ・アプローチ特論」、「臨床社会心理学研究」(同E群対応)を配置している。

# 社会福祉学専攻授業科目の履修と研究指導について



# 2017年度 社会福祉学専攻(修士課程)開講科目

(2015年度以降入学生)

	履修コード	授 業 科 目 名	単位数開講年次		担 当 者	備 考
			1年次	2年次		
基本科目	9001	社会福祉原理研究	2		佐橋 克彦	本年度開講せず 3科目中2単位を修得すること
		ソーシャルワーク理論研究	2			
	9003	福祉政策研究	2		伊藤新一郎	
分野別研究	9005	子ども家庭福祉研究	2		栗山 隆	本年度開講せず 8科目中2単位を修得すること
	9006	障害児・者福祉研究	2		田中耕一郎	
		発達障害研究	2			
	9008	精神保健ソーシャルワーク研究	2		中村 和彦	
	9009	高齢者・高齢社会福祉研究	2		畑 亮輔	
		医療福祉実践研究	2			
	9011	地域福祉研究	2		岡田 直人	
	公的扶助研究	2				
研究方法	9021	質的調査研究	2		水川 喜文	<隔年>本年度開講(集中) 5科目中2単位を修得すること
	9022	量的調査研究	2		中田 知生	
	9023	国際比較福祉研究	2		KU.ネンシュティール	
	9024	ソーシャルワーク実践研究	2		池田 雅子	
	9025	海外福祉実践研究	2		トーマス・グッツ	
関連領域	9031	社会保障財政研究	2		安部 雅仁	本年度開講せず 7科目中2単位を修得すること
		社会保障法研究	2			
	9033	特別支援教育研究	2		田実 潔	
	9034	社会的弱者研究	2		KU.ネンシュティール	
	9035	偏見・差別問題研究	2		横山 穰	
	9036	コミュニティケア政策研究	2		杉岡 直人	
	9037	精神障害学研究	2		永井 順子	
論 文	9041	論文指導 I	②		杉岡 直人	必修
	9042				横山 穰	
	9043				池田 雅子	
	9044				KU.ネンシュティール	
	9045				水川 喜文	
	9046				田中耕一郎	
	9047				安部 雅仁	
	9048				栗山 隆	
	9049				中村 和彦	
	9050				岡田 直人	
	9051				佐橋 克彦	
	9052				中田 知生	
	9053				永井 順子	
	9054				伊藤新一郎	
	9055				畑 亮輔	
	9061	論文指導 II	②		杉岡 直人	
	9062				横山 穰	
	9063				池田 雅子	
	9064				KU.ネンシュティール	
	9065				水川 喜文	
	9066				田中耕一郎	
	9067				安部 雅仁	
	9068				栗山 隆	
	9069				中村 和彦	
	9070				岡田 直人	
9071		佐橋 克彦				
9073		中田 知生	本年度開講せず			
9074		永井 順子				
9075		伊藤新一郎				
9076		畑 亮輔				
9077						
9081	修士論文	④		杉岡 直人	必修	
9082				横山 穰		
9083				池田 雅子		
9084				KU.ネンシュティール		
9085				水川 喜文		
9086				田中耕一郎		
9087				安部 雅仁		
9088				栗山 隆		
9089				中村 和彦		
9090				岡田 直人		
9091				佐橋 克彦		
9093				中田 知生		本年度開講せず
9094				永井 順子		
9095				伊藤新一郎		
9096				畑 亮輔		

〔履修方法〕

社会福祉学専攻においては、社会福祉学専攻(修士課程)の修了の認定を受けるために修得しなければならない30単位のうち、16単位は備考欄に定めるところに従い修得するものとし、その余の14単位は履修していない研究科目を履修することによって修得すること。

〔修了要件〕

大学院修士課程に2年以上在学し、計30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格すること。



## 「認定社会福祉士」研修認証科目の受講修了証明書の申請について

申請資格（下記すべての条件を満たしている方が対象となります。）

- (1) 社会福祉士資格を取得していること。（社会福祉士資格取得後、3年以上の実務経験があることが望ましい。）
  - (2) 本学社会福祉学専攻に在籍していること。
  - (3) 前期履修登録期間内に対象科目の履修登録を行っていること。
- ※申請した科目（2単位）単位授与をもって受講修了証明書が発行される。

### 申請書類

- (1) 「認定社会福祉士」研修認証科目 受講修了証明書交付申請書
- (2) 社会福祉士登録証の写し

### 申請受付期間および手続き

前期履修登録期間中に、申請書類を教育支援課に提出すること。

### 募集人員

10名

### 申請料および受講料

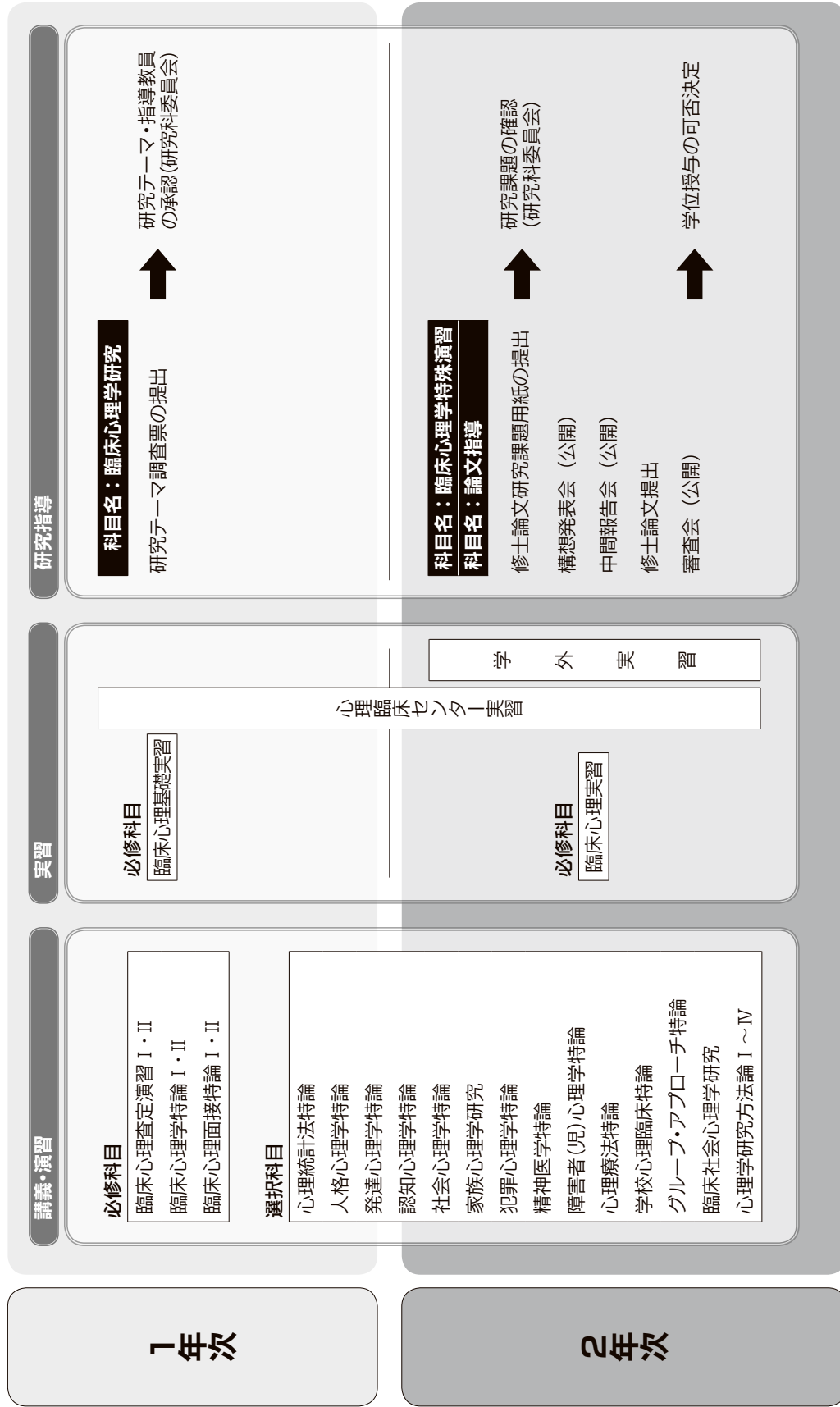
無料

平成29年度（2017）年度「認定社会福祉士」研修認証科目一覧

NO	認証番号	認定社会福祉士制度における科目名称	大学院開講科目	開講期
1	20140002	【分野専門（高齢分野）】 ソーシャルワーク機能別科目群 地域包括ケア、地域包括支援センター（1単位）	高齢者・高齢社会福祉研究（2単位）	後期
2	20140003	【分野専門（障害分野）】 理論・アプローチ別科目群 理論・アプローチ別科目（1単位）	精神保健ソーシャルワーク研究（2単位）	前期
3	20140004	【分野専門（障害分野）】 対象者別科目群 対象者別科目（1単位）	精神保健ソーシャルワーク研究（2単位）	前期
4	20140005	【分野専門（障害分野）】 ソーシャルワーク機能別科目群 地域生活支援と自立支援協議会（1単位）	障害児・者福祉研究（2単位）	後期
5	20140006	【分野専門（障害分野）】 ソーシャルワーク機能別科目群 就労／教育／生き甲斐・社会参加(障害)(1単位)	精神障害者研究（2単位）	前期
6	20140020	【分野専門（児童・家庭分野）】 対象者別科目群 対象者別科目（1単位）	子ども家庭福祉研究（2単位）	後期

※詳しくは認定社会福祉士認証・認定機構 HP (<http://www.jacsw.or.jp/ninteikikou/>) を参照のこと。

# 臨床心理学専攻授業科目の履修と研究指導について



# 2017年度 臨床心理学専攻(修士課程)開講科目

(2015年度以降入学生)

	履修コード	授業科目名	単位数開講年次		担当者	備考
			1年次	2年次		
研 究	9101	臨床心理学研究(A)	④		西山 薫	いずれか4単位を修得すること
	9102	臨床心理学研究(B)	④		田澤 安弘	
	9103	臨床心理学研究(C)	④		牧田 浩一	
	9104	臨床心理学研究(D)	④		鴨澤あかね	
	9105	臨床心理学研究(E)	④		佐藤 祐基	
特殊演習	9111	臨床心理学特殊演習(A)		④	西山 薫	いずれか4単位を修得すること
	9112	臨床心理学特殊演習(B)		④	田澤 安弘	
	9113	臨床心理学特殊演習(C)		④	牧田 浩一	
	9114	臨床心理学特殊演習(D)		④	鴨澤あかね	
	9115	臨床心理学特殊演習(E)		④	佐藤 祐基	
演 習	9121	臨床心理査定演習Ⅰ	②		西山 薫 田澤 安弘	必修
	9122	臨床心理査定演習Ⅱ		②	西山 薫 佐藤 祐基	
実 習	9125	臨床心理基礎実習	②		西山 薫 牧田 浩一 鴨澤あかね	必修
	9126	臨床心理実習		②	田澤 安弘 佐藤 祐基 今川 民雄	
特殊研究	9131	臨床心理学特論Ⅰ	②		牧田 浩一	必修
	9132	臨床心理学特論Ⅱ		②	西山 薫	
	9133	臨床心理面接特論Ⅰ	②		田澤 安弘	
	9134	臨床心理面接特論Ⅱ		②	鴨澤あかね	
	9135	心理統計法特論		2	眞嶋 良全	本年度開講せず
	9136	人格心理学特論	2		佐藤 祐基	
		発達心理学特論	2		柴田 利男	
	9138	認知心理学特論	2		眞嶋 良全	
	9139	社会心理学特論	2		栗林 克匡	
	9140	家族心理学研究	2		佐藤 至英	
	9141	犯罪心理学特論	2		扇子 幸一	
	9142	精神医学特論	2		福島 順子	
	9143	障害者(児)心理学特論	2		豊村 和真	
		心理療法特論	2		鶴飼奈津子	
9145	学校心理臨床特論	2		牧田 浩一		
	グループ・アプローチ特論	2		鴨澤あかね		
9147	臨床社会心理学研究	2		今川 民雄		
研究法	9151	心理学研究方法論Ⅰ	2		豊村 和真	
	9152	心理学研究方法論Ⅱ	2		豊村 和真	
	9153	心理学研究方法論Ⅲ	2		水川 喜文	
	9154	心理学研究方法論Ⅳ	2		水川 喜文	
課題研究	9161	論文指導		⑥	西山 薫	必修
	9162				田澤 安弘	
	9163				牧田 浩一	
	9164				鴨澤あかね	
	9165				佐藤 祐基	
〔履修方法〕 臨床心理学専攻(修士課程)の修了の認定を受けるために修得しなければならない30単位は備考欄に定めるところに従い修得すること。 〔修了要件〕 大学院修士課程に2年以上在学し、計30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格すること。						





## 臨床心理士の受験資格に関する科目の履修

公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会指定運用内規により、大学院において習得すべき指定科目の単位は、次の通りである。

- (1) 臨床心理学特論Ⅰ及びⅡ、臨床心理面接特論Ⅰ及びⅡ、臨床心理査定演習Ⅰ及びⅡ、臨床心理基礎実習、臨床心理実習は、必修科目です（計16単位）。
- (2) 以下の5科目群に含まれる選択必修科目の履修に際しては、各科目群からそれぞれ1科目以上計10単位以上を修得すること。
  - A 群〔心理学研究方法論Ⅰ、心理学研究方法論Ⅱ、心理学研究方法論Ⅲ、心理学研究方法論Ⅳ、心理統計法特論〕
  - B 群〔人格心理学特論、発達心理学特論、認知心理学特論〕
  - C 群〔社会心理学特論、家族心理学研究、犯罪心理学特論〕
  - D 群〔精神医学特論、障害者（児）心理学特論〕
  - E 群〔心理療法特論、学校心理臨床特論、グループ・アプローチ特論、臨床社会心理学研究〕
- (3) 研究（1年次）及び特殊演習（2年次）の指導教授から指導を受けながら、臨床心理学領域に関連したテーマと内容の修士論文の作成に取り組むこと。